

## 裁判員経験者の声

実際に裁判員を経験された方々の声をご紹介します。

最初は自分に務まるだろうかと不安があり、かなりのとまどいがあったが、裁判官、裁判員と議論する中で、時間の経過と共に裁判というものに興味が湧いてきました。これから裁判員に選ばれる方々も何ら心配する必要はないと思います。

(60代, 無職)

今後の物の見方, 考え方に大変プラスになると思う。これまでとは違った視点で物事に向き合うことができる。

(50代, お勤め)

何も知識がない素人でも不安になることなく参加できました。裁判員は誰が選ばれても大丈夫なんだと思えるたくさんさんの配慮がありました。貴重な経験になりました。

(40代, 専業主婦・専業主夫)



仕事への影響を考えて、あまりやりたくないと思っていたが、選ばれた後に会社の上司に相談したら、「**貴重な経験だから行っておいで**」と言われてやってみたいという気持ちになった。すごく悩む場面もあったけれど、気になる部分を説明してもらえたので、**納得しながら進められた**。

(20代, お勤め)



量刑を決める際も、裁判員をする前は、裁判官の方の意見が中心になるのだろうと思っていたが、**裁判官、裁判員と公平に話し合いができたことにやりがいを感じた**。この度は貴重な経験をさせていただきました。

(30代, お勤め)

**とても話しやすい雰囲気**で、評議の間とても吸収する所がたくさんあった。

(20代, 学生)



司法は、自分とは別世界の事と思っていましたが、そうではないとわかりました。自分も社会の一員であり、世の中で起こっている事にもっと関心を持って生活していかなければと感じました。**子供に語れる人生経験**が1つできて良かったです。

(40代, パート・アルバイト)



## この冊子のめざすもの

裁判員制度は、国民のみなさんから選ばれる裁判員の方が刑事裁判に参加する制度です。

裁判員は、法廷で行われる審理に立ち会い、裁判官とともに、被告人が有罪か無罪か、有罪の場合には、どのような刑にするのかを判断します。



平成21年にこの制度が始まってからこれまで、様々な年代や職業の方々に、裁判員として裁判に参加していただき、多くの判決が出されています。実際に裁判員裁判に参加した多くの方々からは、①審理の内容は理解しやすかった、②評議は話しやすい雰囲気、十分に議論ができた、③裁判に参加したことをよい経験と感じたなどといった感想をいただいております。多種多様な国民の方々が、充実感を持って、裁判員としての職務に従事されています。



とはいえ、実際に裁判員裁判に参加した方々の多くも、裁判員に選ばれる前には、裁判に参加することについて、責任を重く感じたりするなどして、不安を覚えておられたようです。皆様も、同じような不安や、法律の専門家ではないので正しい判断ができないのではないかといった不安をお持ちになるかもしれません。また、裁判は長くかかるのではない

か、仕事や家庭などの都合はどの程度考慮してもらえるのかといった不安や疑問をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。



そこで、私たちは、国民の皆様の不安や疑問の一つ一つに丁寧にお答えすることが、制度への御協力をお願いする上で何よりも重要であると考え、この冊子を作りました。



この冊子では、裁判員制度の概要をお伝えするとともに、裁判員裁判の流れ（裁判員に選ばれるまでの手続、裁判員裁判における審理、評議など）について、皆様にできるだけ具体的なイメージをもっていただくための情報をお伝えすることを目指しています。



もちろん、最初から最後まで読み通していただく必要はありません。どこからお読みいただいても、一部分だけをお読みいただいても必要な情報が得られるように、構成や内容を工夫しています。



なお、末尾には、裁判員制度に関する資料（各種統計データ、裁判員を経験された方々へのアンケート結果等）も掲載していますので、関心のある方は御参照ください。

この小冊子が、裁判員制度を理解するための一助となれば幸いです。

